

平成28年度 校内研究(研修)の充実に関するグループ活動報告

1 委員名簿

役 職	学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及グループ	体育, 保健体育の指導の充実グループ
G主任	三浦 礼子 (名寄西小学校長)	和田 明典 (名寄中学校長)
G副主任	村上比呂人 (風連下多寄小校長)	
研究主任	里村 徹 (名寄小学校教頭)	森田 繁 (智恵文中学校教頭)
研究副主任	本間 修司 (中名寄小学校教頭)	妹尾 洋美 (風連中学校教頭)
研究員	福川 洋枝 (名寄小学校教諭) 市川 有紀 (名寄小学校教諭) 久保 康德 (名寄南小学校教諭) 香川 寛明 (名寄南小学校教諭) 齋藤 年恵 (名寄西小学校教諭) 上原和希子 (智恵文小学校教諭) 中村 紀子 (風連中央小学校教諭)	宮下隆太郎 (名寄東中学校教諭) 宮下隆太郎 (名寄東中学校教諭) 鬼原 善彦 (風連中学校教諭) 木戸口 玲 (智恵文中学校教諭) 高橋 理 (名寄中学校教諭)

2 研究内容

- (1) 学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及に関すること
- (2) 体育, 保健体育の指導の充実に関すること
- (3) ミドルリーダーなど, 人材育成に関すること

3 研究内容の具体化・具体的取組

- (1) 学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及グループ(以下, 学校力G)

①学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及に関すること

ア) 学校力向上に関わる各学校の実施計画書や報告書の情報交流

- ・「第1回ミドルリーダー研修」において, 学校力向上に関する総合実践事業に関する理解を深める。
- ・「第2回ミドルリーダー研修」において, 実践指定校及び各連携協力校の学校力向上に関する総合実践事業の取組状況についての実践発表, 交流を行う。

イ) 先進校視察研修

- ・学校力向上に関する総合実践事業の実践校(石狩市立双葉小学校, 石狩市立花川小学校), 体力向上に取り組んでいる実践校(江別市立大麻小学校), 中学校で学力向上に取り組んでいる実践校(江別市立大麻中学校)を視察し, 先進的な取組を学ぶ。

ウ) 名寄市における学校力向上に関する総合実践事業への積極的参加の呼びかけ

- ・学校力向上アドバイザー派遣事業(名寄小学校2回, 風連中央小学校1回)
- ・学校力向上に関する総合実践事業「地域連携研修」(名寄小学校)

エ) 先進校視察研修報告会

- ・視察研修の報告会を開催し, 研修成果の普及を図る。
- ・期日 12月13日(火)
- ・場所 名寄小学校 音楽室

②ミドルリーダーなど、人材育成に関すること

ア)第1回ミドルリーダー研修

- 実施日 7月20日(木)
- 内容 学校力向上に関する総合実践事業の成果
- 会場 名寄小学校

イ)第2回ミドルリーダー研修(兼「先進校視察事前研修」)

- 実施日 8月31日(水)
- 内容 ・学校力向上に関する総合実践事業の成果の交流
・校内研究(研修)の取組の工夫の交流
- 会場 市役所4階大会議室

(2) 体育, 保健体育の指導の充実グループ (以下, 保健体育G)

①全国体力・運動能力, 運動習慣等への分析, 課題を克服するための指導のあり方

※全国体力・運動能力, 運動習慣等調査の実施終了後, 各校のデータを取りまとめ, 名寄市の全体の結果を分析しその特徴(傾向)を把握して各校の改善策へ参考となる資料を発信した。

②体育の効果的な指導法に関する実技研修会

ア)「体育の効果的な指導法に関する実技研修」

- 講師 阿部雅司氏(名寄市特別参与 スポーツ振興アドバイザー)
- 内容 「児童生徒の走力を高める指導法に関する実技研修」
昨年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査で名寄市の課題であった50メートル走の効果的な指導法について教員向けの研修会を行った。
- 実施日 5月18日(水)
- 会場 名寄西小学校

イ)「新体力テストに関わる実技研修」

- 講師 名寄中学校 須藤雅典 教諭
- 内容 「新体力テストの実施方法等について」
来年度に向けて, 新体力テストで課題のあった項目を中心に, 新体力テストの実施の仕方のポイントや新体力テストで力を十分発揮できるための体育の授業で取り入れることが可能な準備運動等について理解を深める研修を行った。
- 実施日 11月30日(水)
- 会場 名寄南小学校

4 今年度の活動経過と予定

年	月	日	主な内容	担当	備考
28	4	26	第1回学校改善プロジェクト委員会 第1回校内研究(研修)の充実に関するグループ会議 ・平成28年度研究内容の検討 ・平成28年度具体的取組の検討 ・役割分担検討		
28	5	10	学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー派遣事業 (1)講師 上越教育大学大学院教授 赤坂真二氏 (2)演題「協同力を高める教師のリーダーシップ」 (3)場所 名寄小学校 音楽室	学校力G	69名参加

28	5	16	第2回校内研究(研修)の充実に関するグループ会議 ・研究内容の具体化 ・推進計画, 役割分担 等		
28	5	18	体育の効果的な指導法に関する実技研修会【資料1】 (1)内容「児童生徒の走力を高める指導法に関する実技研修」 (2)講師 名寄市特別参与スポーツ振興アドバイザー 阿部 雅司 氏 (3)場所 名寄西小学校 体育館	保健体育 G	43名 参加
28	7	20	「第3回校内研究(研修)の充実に関するグループ会議」兼 「第1回ミドルリーダー研修」 (1)提言(里村研修主任) ・学校力向上に関する総合実践事業に関する相互理解を図 った。【資料2】 (2)取組内容の共有 ①自校の学力向上に関する総合実践事業の取組 ②「人材育成」の視点に関わって, 各校の校内研究(研修) の工夫	学校力G	13名 参加
28	8	31	「先進校視察事前研修」兼「第2回ミドルリーダー研修」 (1)4つの視察校の取組(学校力向上, 体力向上, 学力向上) の概要について事前に共通理解を図る場とした。【資料3】 (2)人材育成ミドルリーダー研修として, 研究員が現任校の学 校力向上【資料4】や校内研究(研修)【資料5】の取組 をまとめ発表, 交流する場とした。	学校力G	28名 参加
28	9	13	先進校視察研修(学校力向上に関する取組) ・石狩市立双葉小学校(近隣実践校), 石狩市立花川小学校(実 践指定校)の視察を行った。【資料6】	学校力G	14名 参加
28	10	26	先進校視察研修(体力向上・学力向上の取組) ・江別市立大麻小学校(体力向上)【資料7】, 江別市立大麻 中学校(学力向上)【資料8】	学校力G	17名 参加
28	11	14	学校力向上に関する総合実践事業「地域連携研修」 (1)講師 上越教育大学大学院教授 赤坂真二 氏 (2)内容 授業公開, ワークショップ型研修, 講演 (3)演題「協同力を高めるチーム学習の在り方」 (4)場所 名寄小学校	学校力G	180 名参加
28	11	28	学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー派遣事業 (1)講師 別海町立上西春別幼稚園長 住吉幹城 氏 (2)内容 授業公開, 研究協議, 講演 (3)演題「学校力向上の推進について～別海町立別海中央小学 校の実践を通して～」 (4)場所 風連中央小学校	学校力G	54名 参加
28	11	30	体育の効果的な指導法に関する実技研修【資料9】 (1)内容「新体力テストの実施方法等に関する実技研修」 (2)講師 名寄中学校 須藤 雅典 教諭 (3)会場 名寄南小学校 体育館	保健体育 G	28名 参加
28	12	13	先進校視察研修報告会【資料10】 (1)内容 視察研修の成果の普及 (2)場所 名寄小学校 音楽室	学校力G	41名 参加
29	12	21	第3回教育改善プロジェクト委員会 ・各研究グループの研究活動の成果と課題 ・教育研究集会の発表と協議内容		
29	1		教育長に年度の研究のまとめを報告(答申)		

29	1	24	名寄市教育研究集会 平成28年度の研究成果などの発表・協議，交流 発表者 名寄中学校 高橋 修 教諭		EN-RAY ホール
29	2		第4回教育改善プロジェクト委員会 平成28年度の研究計画について検討・修正		

4 今年度の成果と課題

(1) 成果

学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及グループ，体育，保健体育の指導の充実グループともに，年度当初計画した内容を，日程や各学校の実態を踏まえ見直ししながら，計画していた取組について，概ね計画通り実施することができた。

【学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及グループ】

◎2回の「先進校視察研修」の実施とその報告会を通して，他管内の先進的な取組（学校力向上，体力向上，学力向上）の普及を図ることができた。

◎2回のミドルリーダー研修は，研究員による出前講座を見直した。1回目は実践指定校の取組の発表・意見交流を中心に行い，2回目は1回目の発表を受けながら各校の取組や校内研究（研修）について小学校・中学校・小規模校の3つの小グループで協議・全体交流するという形式で行った。ミドルリーダーが発表し交流することで，人材育成・授業改善への意識が高まり各校での人材育成にも寄与することができた。

【体育，保健体育の指導の充実グループ】

◎体育指導の充実を図るために2回の実技研修を行った。1回目は新体力テストに向けて，基本技能を定着させるためのスキルアップトレーニングの工夫，つまずきのポイント，走力アップのための『動きづくりの運動』について行った。参加者にわかりやすく説明され，有意義な研修となった。

◎2回目は今年度集約した全国体力・運動能力，運動習慣等調査結果をもとに，名寄市全体の傾向の周知と来年に向けた新体力テストの検査方法の実技指導を行った。授業の中で活かせる充実した研修となった。

(2) 課題と今後の方向性

- ①学校力向上に関する総合実践事業の成果の普及は，各校での取組がなされ，ある程度広がりを見せているが，さらに名寄市全体の意識化を図り指導の徹底につなげることが必要である。
- ②研究員個々の参画意識が高まり，研究員が主体的に活動に参加できる研究内容や参加の仕方について，今後も工夫と改善が必要である。（視察研修先を道徳や外国語活動の実践校などに広げる，研修での協議をワークショップ型にする，レポート作成の工夫等について）
- ③体力向上に向けて，専門的知識のある講師による実技研修を継続して行い，教員の体育指導のスキルアップを図る。新体力テストの実施に向けて4～5月段階で実施に関わる講習を行い，児童生徒の力が最大限発揮できるように努める。
- ④先進校（大麻小）の取組にもあったが，運動に関わる1～6年までの系統表や名寄市内の各校で取り組んでいる工夫された授業実践の取組（個人カード・アドバイスカード・指導方法・体力づくりの奨励カード等）が，市内全校で共有され全市が一体となった取組を今後一層推進する必要がある。

【資料1】「体育の効果的な指導法」に関する実技研修会

- 名寄市教育改善プロジェクト校内研修（研究）の充実に関する研究グループが中心となって、全市が一体となった「オール名寄」で児童生徒の体力の向上を図る効果的な指導法等の共有化を図る取組の推進を図った。
- 第1回目の実技研修は、平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査で課題のあった、「走力」を高める効果的な指導方法等について、実技研修を実施した。

- 1 日時 平成28年5月18日（水） 15:30～16:30
- 2 会場 名寄西小学校 体育館
- 3 講師 名寄市特別参与スポーツ振興アドバイザー 阿部 雅 司 様
名寄市立名寄中学校 永 宮 慎一郎 教諭
- 4 対象 本市全学校の体育科担当教員等（43名参加）
- 5 概要

（1）「新体力テスト」実施上の留意事項について

名寄中学校永宮慎一郎教諭から、新体力テストの各種目における配慮事項や記録の測定の仕方など、新体力テストの効果的な実施方法に関する説明があり、全職員で共通理解を図った。また、説明で使用したパワーポイントを全校に配付した。

（2）「体育の効果的な指導法」に関する実技研修

名寄市特別参与スポーツ振興アドバイザー阿部雅司様より、「新体力テスト」に向けて、「走力」を高める効果的な指導方法等や一人一人の体力や技能の程度等に応じた実践例を紹介いただいた。



【股割り & ダッシュ】



【腿引き上げ & ダッシュ】



【腕振り歩き】



【腕振り歩き】



【変形ダッシュ】



【留意点についての説明】

（3）成果

- ・ 実際に体を動かすことで、指導の際にどのように体を動かせばいいのか、ポイントが明確になり、すぐに指導に活かせる研修となった。
- ・ オリンピック経験者の阿部様に教えていただくことで、教職員の資質の向上につながった。

【資料2】第1回ミドルリーダー研修会

平成28年度
名寄市教育改善プロジェクト委員会
第3回
校内研究(研修)の充実に関するグループ会議

ミドルリーダー研修会

平成28年7月20日(水)
名寄市立名寄小学校 音楽室
教頭 里村 徹

I はじめに

- * 皆さんが教師になってからのこの10年、教育を取り巻く状況はどのようなものだったでしょう。
- * その前の10年は、どうだったでしょう。
- * では、この先10年、20年後、子どもたちが自立して生きていくときの社会の姿を想定し、目標を明確にした教育を進めていく必要がある。
- * また、その時(10年後、20年後)の教師としての自分自身をイメージすることが大切。

平成27年12月21日 中央教育審議会(答申)
これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～

【学校を取り巻く環境変化】

近年の教員の大量退職、大量採用の影響等により、教員の経験年数の均衡が顕著に崩れ始め、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図ることのできない状況があり、継続的な研修を充実させていくための環境整備を図るなど、早急な対策が必要である。

【学び続ける教員】

学ぶ意欲の高さなど、我が国の教員の強みを最大限に生かしつつ、子供に慕われ、保護者に敬われ、地域に信頼される存在として更なる飛躍が図られる仕組みの構築が必要である。

平成27年12月21日 中央教育審議会(答申)
これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～

【社会に開かれた教育課程とチーム学校】

◆ 教育課程の改善に向けた検討と歩調を合わせながら、各教科等の指導に関する専門知識を備えた教員の専門家としての側面や、教科等を越えたカリキュラム・マネジメントのために必要な力、アクティブ・ラーニングの視点から学習・指導方法を改善していくために必要な力、学習評価の改善に必要な力などを備えた学びの専門家としての側面も備えることが必要である。

◆ 教員が多様な専門性を持つ人材等と連携・分担してチームとして職務を担うことにより、学校の教育力・組織力を向上させることが必要であり、その中心的役割を担う教員一人一人がスキルアップを図り、その役割に応じて活躍できるようにすることとそのため環境整備を図ることが重要である。

平成27年12月21日 中央教育審議会(答申)
これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～

【これからの時代の教員に求められる資質能力】

◆ これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要である。

◆ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量を高めることが必要である。

◆ 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成が必要である。

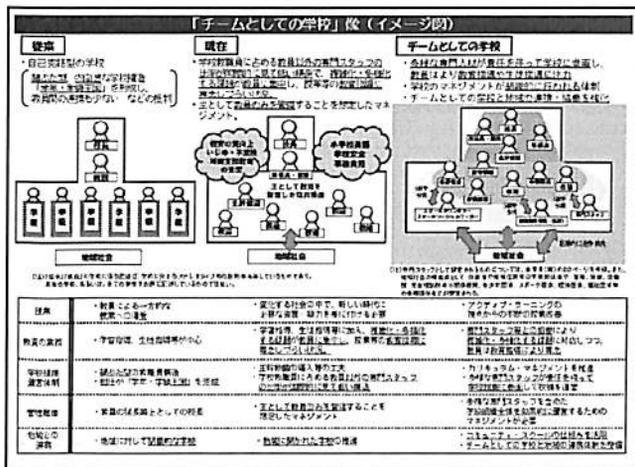
II 学校力とは

学校力に関する総合実践事業

学校改善に関する先進校事例や優良事例を十分踏まえ、管理職のリーダーシップの下で全校が一つのチームとなった包括的な学校改善を推進し

「学び続ける学校」のモデルを提示することにより、実践成果の普及に資するとともに、将来のスクールリーダーを継続的に輩出する新たな仕組みを構築する。

学校力向上に関する総合実践事業実施要項 事業趣旨 より



学校力とは

学校が一体となり組織的な力を生む教育力

学校が **チーム** となって

一貫 **徹底** **継続**

共通

取り組むことで学校力が向上する！

学校力向上に向けた学校改善の視点

指導課程・指導方法等	地域・学校との連携	人材育成	学校マネジメント
<ul style="list-style-type: none"> ア 学年ごとの到達目標の設定(学力、体力、生活リズム等) イ 全学年における学習規律・生活規律の統一・徹底 ウ 各学年の基礎学力を確立する教育課程・指導方法の確立 エ 体力向上のための取組 オ 特別な支援を要する児童生徒へのきめ細やかな指導 カ 学校間連携・総合的な学習の時間と各教科との関連の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ア 学校支援対策本部の設置及び活動の促進 イ コミュニティ・スクール導入の積極的検討 ウ 地域と連携した土曜日の活用(在り方)の推進 エ 児童生徒が勉強と向き合う時間の確保 オ 社会教育との連携的な連携・社会教育プログラムの活用 カ 課題や危機意識の共有及び協働関係の構築 キ 休日や長期休業中の等の補充的学習サポートの実施等 	<ul style="list-style-type: none"> ア 若手教員や将来のスクーリーダーの体系的な育成 イ 初任者研修等の自校実習 ウ 放課後テーマ別研修への近隣実践校教員参加の積極的受入 エ 体力向上のための取組 オ 特別な支援を要する児童生徒へのきめ細やかな指導 カ 学校実習場 	<ul style="list-style-type: none"> ア 学校の改善サイクルの実質化・迅速化 イ 外部からの継続的な指導員を確保 ウ 教員研修・指導方法等の不審の見直し エ 成果・課題の積極的検証 オ 教員が児童生徒と向き合うための時間確保 カ 全ての児童生徒がより高い学習に集中できる学校環境・教室環境の整備

上川「学校力」向上ガイドライン

学校マネジメント	人材育成
<ul style="list-style-type: none"> ①学校の改善サイクルの実質化・迅速化 ②教員が子どもと向き合う時間の確保 ③学校経営の成果・課題の積極的な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ①若手教員や将来のスクーリーダーの体系的な育成を目指した総合的な取組 ②日常授業の改善に直結する校内研究(研修)の重点化 ③特別な支援を要する児童生徒への指導や支援の充実に向けた教員の指導力向上を図る取組

オール上川で、全ての子どもに、生活力も力を

学校力に関する総合実践事業

平成24年度 総合実践事業校に指定 試行実施

平成25年度より本格実施

【近隣実践校】 8校
 名寄南小, 名寄東小, 名寄西小, 風連中央小
 名寄中, 名寄東中, 智恵文中, 風連中

■ 実践指定校は、4領域26項目全て
 ■ 近隣実践校は、4領域から2項目程度について設定

1 教育課程・指導方法等

○学習規律・生活規律の徹底
 ○基礎学力保障
 ・繰り返し指導を位置付けた年間指導計画
 ・習熟度に応じた指導, TT等
 ○体力向上
 ○特別支援学級・支援を要する児童へのきめ細かい指導
 ○学校間連携
 ○総合的な学習

「各都市学習規律(10項目)」

1. チェイムがなったら、素早く戻す。
2. 学習の始めのあいさつをきちんとする。
3. 正しい姿勢で座る。
4. はっきり意思をし、みんなに聞こえる声で話す。
5. 話す人を真ん中を向き、目を合わせ、姿勢よく聞く。
6. わだかまりや誤解をしない。
7. 必要のないものは机の上には置かない。
8. 学習中、勝手に席を離れない。
9. 学習の終わりのあいさつをきちんとする。
10. 学習用具を片付け、次の学習の準備をする。

2 地域・家庭との連携

- 勉強と向き合う時間の確保
- 長期休業中の補足的学習サポート 等

子どもよりよい育ちのために 家庭で取り組む7つのポイント

1. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

2. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

3. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

4. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

5. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

6. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

7. 勉強の習慣を身につけさせることです。
勉強は、子どもが自ら進んで取り組むことが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。勉強の習慣を身につけさせるには、親が勉強を大切にする姿勢を見せることが大切です。

3 人材育成

- スクールリーダーの計画的な育成
- 初任段階教員研修の自校実施
- 日常授業の改善に直結する校内研修
- 通常学級在籍児童への校内研修プログラム

- ・改善プロジェクトでの活動
- ・ミドルリーダー育成研修会



4 学校マネジメントその他

- 学校の改善サイクルの実質化・迅速化
- 外部からの継続的な指導助言
- 子どもと向き合う時間の確保
- 全(含：発達障がい)児童・生徒が集中して学ぶ学習環境

アドバイザー研修



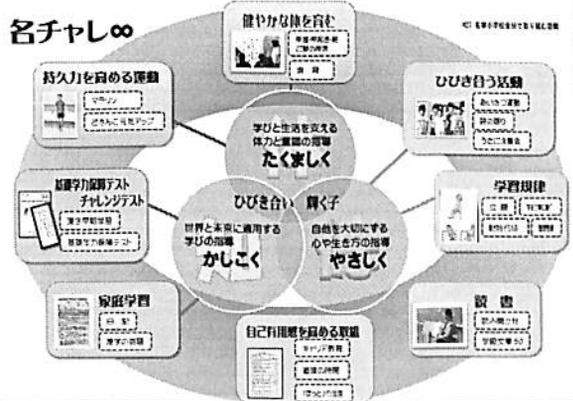
11月12日
北海道教育大学教職大学院
教授 水 上 丈 史 氏



7月21日、11月30日
上越教育大学教職大学院
教授 赤 坂 真 二 氏

Ⅲ 名寄小学校の取組

名チャレ∞



名寄小学校 学校力向上の取組から



- 体** 学びと生活を支える体力と意識の指導
- 徳** 自他を大切にできる心や生き方の指導
- 知** 世界と未来に通用する学びの指導
- 人** 使命感をもち、自ら向上し続ける教師の育成
- 学** びを支える支持的風土のある学級づくり

体

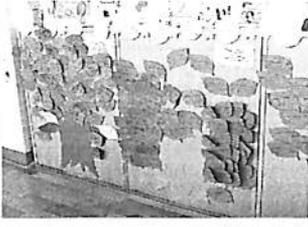
学びと生活を支える体力 年間を通じた食育



本校教諭による定期的な食育指導

早寝・早起き・朝ご飯の推進

徳 自他を大切にできる心や生き方
学びを支える環境づくり



読書の木



先生おすすめの本

徳 自他を大切にできる心や生き方
学びを支える環境づくり



掲示物

徳 自他を大切にできる心や生き方
「マイノート」の取り組み



徳 自他を大切にできる心や生き方
道徳教育の推進



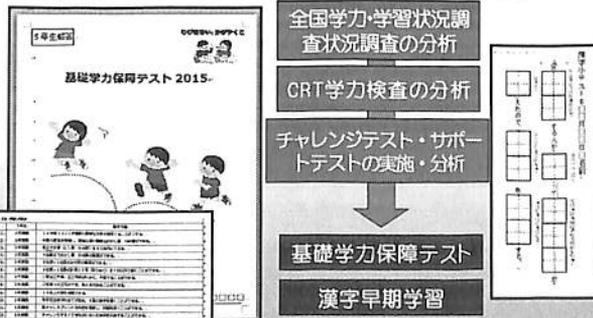
道徳推進教諭によるミニ研修
 36週分の板書・挿絵のデータの蓄積
 年間指導計画・別業の作成

徳 自他を大切にできる心や生き方
道徳教育の推進



道徳ノートの使用 道徳コーナーの掲示
 道徳アンケートの実施

知 世界と未来に通用する学びの指導
基礎学力保障テスト



全国学力・学習状況調査状況調査の分析
 CRT学力検査の分析
 チャレンジテスト・サポートテストの実施・分析
 基礎学力保障テスト
 漢字早期学習

学 学びを支える支持的風土のある集団づくり ニコニコの広がり

なかよしデー
クイズ大会

じゃんけん
手つなぎ
おに

なかよしデー
マジックショー

児童委員会企画の全校遊び

学 学びを支える支持的風土のある学級づくり ふわふわの広がり

ふわふわ童謡
チリチリ童謡
アンケート

ハイタッチ運動

ありがとうキャンペーン

学校力が高まると 成果

体 運動能力や安全意識が高まりました

徳 自己管理能力が高まりました

知 基礎的な学力が身に付きました

未来に生きる力

同僚性の高まり

教師力の向上

さらに向上させたい 課題

- ◇地域・東農との連携
 - 家庭学習環境の増加、質の向上
 - アウトメディア（テレビ・ゲーム）の時間を減らす
- ◇思考力・表現力・判断力の向上
 - 教科の考えをもち、共通する課題
 - 主体的に考え、行動できる

IV 今後に向けて 10年後も学び続けられる教師

学校経営を担う
モデルリーダーとしての
自立

後輩の育成

学校経営

自分 Management

児童生徒の育成

学級経営を担う
担任としての自立

教師の仕事は、
Management
に始まり、
Management
に終わる。
(赤坂 真二)

Plan Do Check Act

石狩市立花川小学校

〒061-3281

石狩市花畔1条1丁目7番地

TEL 0133-64-5316 FAX 0133-64-2112



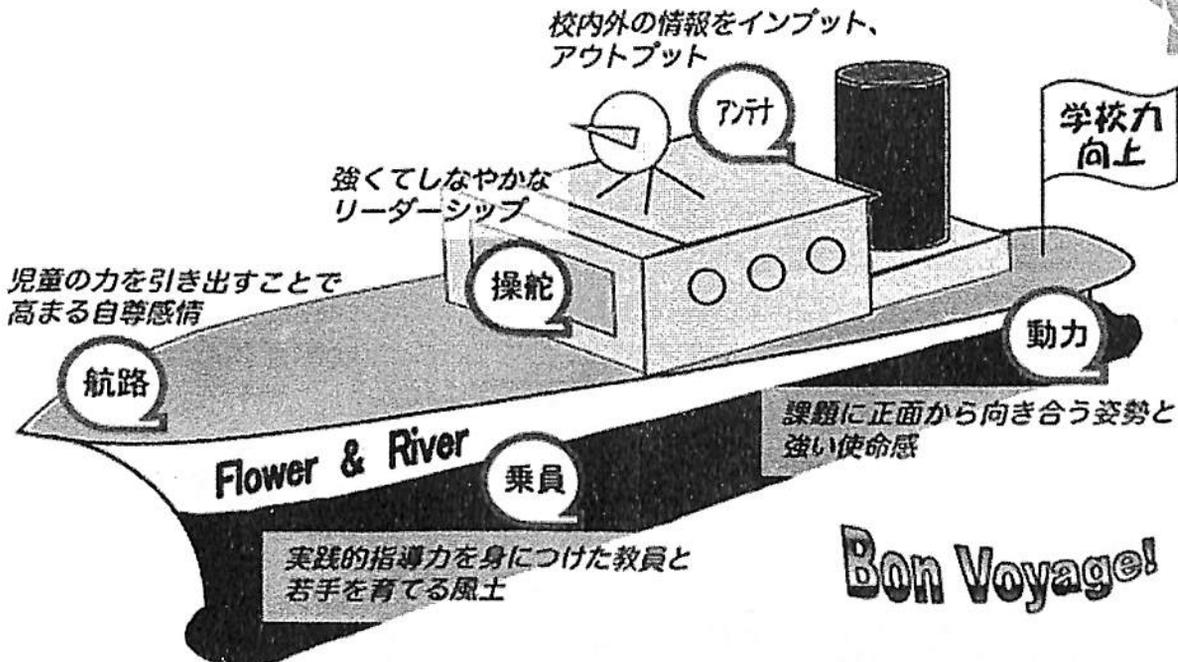
『学校力向上に関する総合実践事業』

管理職のリーダーシップの下で、学力、体力の向上や地域・家庭との連携、若手教員の育成などを組み合わせた総合的な取組により、これまでの研究成果のさらなる普及に資するとともに、将来のスクールリーダーを輩出する新たな仕組みを構築しようとする北海道教育委員会指定の事業。

本校は、平成24年度より始まった同事業の実践指定校となり、平成28年の今年、5年目を迎えました。

コンセプト「花川小シップモデル」

学校力向上に関する総合実践事業実践指定校(H.24~)



1. 花川小シップモデルの構想にあたって (平成24年度設定時)

学校力向上に関する総合実践事業の内容には、「道内外の先進事例及び地域・学校の実態を踏まえて、学校力向上に関する包括的な取組を行うもの」と明記されており、4領域26項目においてその成果が質、量ともに求められていることから、従前の研究指定と比べ、任務性が極めて高い。今後の学校教育全体への波及を期待されていることは承知しているが、本校としては、一方で教育課題に基づいて教育目標や経営方針を達成するという本来の使命も存在する。

こういった複雑な環境下におかれている本校を「船(シップ)」に見立てるとわかりやすい。指定期間の明示はなく、26項目の到達目標や取組内容についてはある程度学校に任せるということであるから、最短コースを一気に飛ぶわけでないし、通るべきレールや道路を示されてもいない。「管理職のリーダーシップの下での包括的な学校改善を推進することにより、従前の研究成果の更なる普及に資する」という趣旨であるので、船長が指導力を発揮し、チームの中でクルーがそれぞれの役割を果たしながら目的地に向かうという進み方が似ている。また、本来の学校の経営方針もあるから、それとのバランスをとることも重要であり、気象状況を正確に把握し、海図と羅針盤を頼りに慎重に航行するという姿勢も重なる。

学力、体力、心の向上を図り、幅広く成果を集めるという点においてはトロール船のようであり、得られたデータを分析し、役立てるといふ点においては調査研究船のようであり、初任者、若手の育成、研修の充実という点においては実習船のようであり、戦略性をもち、様々に仕掛けていくという姿は、すでに「船」ではなく「艦」と言ってもいい。

近隣校との連携、成果の波及、関係機関の協力等課題は多い。校内外に、理解を求める必要もあることから、同事業の推進についてわかりやすく説明するためにシップモデルを構想した。

(平成 24 年)

※平成 28 年度 4 領域 2 6 項目

2. シップの構成

《 動力 》 出力のアップ

- チームワーク、フットワーク、ネットワークで指導の充実を図る教職員
- 児童生徒支援加配 3 名によるきめ細やかな指導
- 初任者指導加配 1 名による初任者指導の充実 ※平成 26 年度は未配置
- 新しいミッション加配事務職員 1 名によって子どもと向き合う時間の確保
- ☆課題に正面から向き合う姿勢と強い使命感

《 操舵 》 しなやかな舵取り

- 経営方針「児童の力を引き出し、自尊感情を高める」
- 石狩管内推進計画「知・徳・体のバランス」
- 石狩市教育行政執行方針「基礎学力の定着、自信と意欲」
- ☆管理職の強いリーダーシップ

《 航路 》 結果を出す

- 学校力向上 26 項目の目標達成の道筋（中期計画）
- 学力学習状況調査の実施、結果分析、活用
- 最低保障学力の定着（チャレンジテスト、学力テスト、TT・補充的指導など）
- 1校1実践の体力づくりの推進
- 生活リズムチェックシートで生活習慣の確立
- 学校間連携、学校支援地域本部等社会教育との連携
- ☆児童の力を引き出すことで高まる自己有用感

《 アンテナ 》 受発信による成果の波及

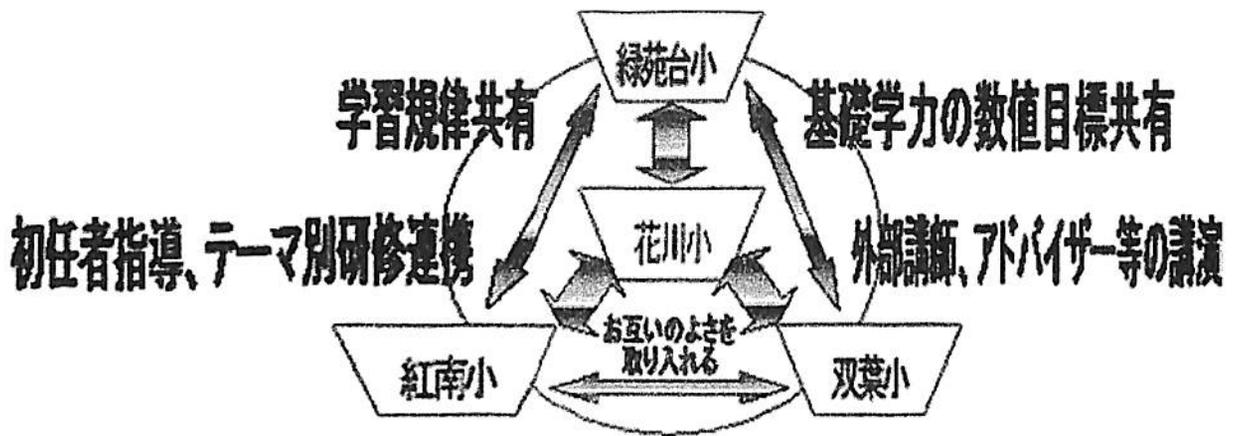
- 児童、保護者、地域の情報収集
- アドバイザーからの教育情報の受信
- ホームページ、学校便りの発信
- 学校関係者評価、保護者アンケート
- ☆校内外の情報をインプット、アウトプット

《 乗員 》 組織運営と人材育成

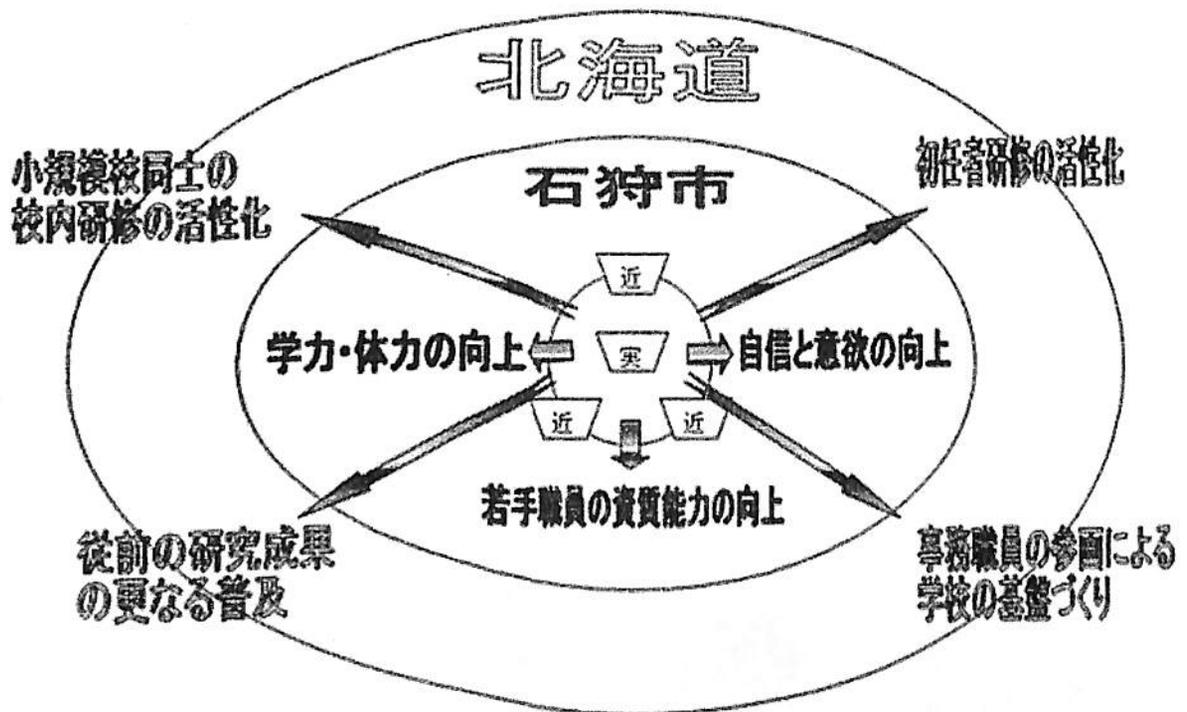
- 教頭を中心に具体的な目標の設定と達成状況の確認
- 教務部を中心に補充的指導の充実、基礎学力の定着
- 研究部を中心に学習規律（板書、ノート指導）の徹底、言語活動の充実、授業改善
- 活動部を中心に職員が先頭に立って取り組む体力づくりの推進
- 生徒指導部を中心に規範意識、安全意識、美化意識の向上
- 事務部を中心に課題解決のための予算執行と教育環境整備
- 特別支援コーディネーターを中心に困り感のある児童に細やかな指導
- 校内での指導及びテーマ別研修、近隣校との連携など初任者研修の充実
- 授業公開を中核にした実践的な研修による授業力の向上
- ☆高い実践的指導力をもつ教員と若手を育てる風土

3. 最終のイメージ

(1) 近隣校との連携



(2) 実践成果の波及



本校は、「学校力向上実践指定校」という旗を掲げたフラッグシップであり、様々な方策を通して、近隣校と密接に連携しながら、石狩市内各校、また全道にその成果を波及させる所存である。

「当該校から将来のスクールリーダーを輩出する新たな仕組みを構築する」というねらいについては、よりよい船乗りから強い決断力や責任感のある船長や機関長が育つと同様、校長自ら研修に励み、各職員のよさを引き出し、次の時代を担う学校職員を育てていきたい。

【資料4】先進校視察事前研修

各校の学校力向上の取組の発表資料(一部)

【近隣実践校の取組(名寄市立風連中央小学校)】

実施計画書			
要綱記載内容	実施予定	具体的取組内容	特に重点と考え、取り組んでいる
1 教育課程・指導方法等	H28	<ul style="list-style-type: none"> 『名寄市教育改善プロジェクト委員会』との連携 「名寄市学習規律」及び学習の「約束やきまり」の指導の徹底 月別重点項目の設定、達成度の校内調査 校内研修による学習規律の内容確認と共通理解 保護者、地域への取組内容、達成度の公表 	<p>感覚ではなく客観的なデータに基づくこと、保護者へもていねいな説明を行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習規律については、児童、教師、参観日における評価を実施 ②取り組みについて、管理職、主任、部長が毎参観日B懇談時にあらゆる調査に関して結果や今後の取組について説明
	H28	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の改善 校内研修を中心とした指導力の向上 教職員の研修・公開研参加等による知識や技術の向上 習熟度別少人数指導の充実とTTの効果的な活用 長期休業中の補充学習や放課後学習の充実による学力の底上げ 	<p>日常の授業に直結した研修・実態に合わせた指導の徹底・共通指導事項の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ①中央小スタンダードを全職員で確認、調査については全員で共有、共通指導事項を徹底(教育計画に盛り込む) ②標準学力テストの結果を部、学年段階で分析し、具体的手立てを組む、実施 ③学級の実態に合わせたTT、習熟度の実施
2 地域・家庭との連携	H28	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の児童質問紙の分析をもとにした「学習時間、ゲーム・テレビ時間」等に対する生活指導 教育相談等による学年・個人傾向の把握。発達段階に応じた生活習慣の指導。 家庭学習習慣化指導、啓発用資料配付(家庭学習の手引き) 	<p>各種アンケートの実施、分析、改善、精選</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小アンケート(生活実態保、児) ・児童アンケート(算数アンケートと統合) ・保護者アンケート ・ほっと・学校評価・いじめ(サミット)・携帯所持・道徳性
	H28	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の学校評議員会(参観日に実施) P T A 役員による評価(年度末) 運動会、学芸会等の行事や、学校の教育活動についての保護者アンケート 計画的な参観日公開(地域参観日での全学年道徳授業公開) 全国学力・学習状況調査の情報を全校の保護者に対して提供 「いじめ防止等対策委員会」の組織、取組内容の公表 	1 イ に同じ
4 学校マネジメント・その他	H28	<ul style="list-style-type: none"> ○データに基づく現状・課題の徹底的な分析 ・全国学力・学習状況調査結果の徹底分析と改善策の策定 ・N R T 学力検査結果の徹底分析と改善策の策定 ・各種アンケート、生活リズムチェックシートの結果分析と改善策の策定 ・体力テスト結果の分析と改善策の策定 ・『学校向上部』による、ロードマップ・学校改善プランの見直し、作成。全国学力・学習状況調査の採点の迅速化と分析、対応策の策定。新体力テストの分析・改善取組内容の策定・目標の設定 ・マネジメントサイクルでの各行事の実施 ○学年ごとの具体的な達成目標の設定 ・学期、学年ごとの到達目標の設定と評価次学期・次年度への改善(マネジメントサイクルの徹底)・達成目標は学級経営案に記載 ・学級経営案の交流と指導内容の確認 	<p>上記に同じ</p> <p>→チェックは、家庭での取組</p>
	H28	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝の職員打合せ」なしの日(火・金)の設定※日報による連絡事項の徹底 ・毎週金曜日の定時退勤日・会議議事内容の精選による会議時間短縮・長期休業中の職員会議・加配教員を活用した校務の役割分担の見直し 	→研修も実施

【資料5】先進校視察事前研修

各校の校内研究(研修)の工夫の発表資料(一部)

校内研修(研究)の工夫について(名寄東小学校)

項目	内容	説明
主たる研修	言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育む学習指導を目指している。	<p>東小としての授業の展開の仕方について共通理解を図り、児童の思考の流れに沿った問題解決的な学習過程の中に、意図的・計画的に言語活動を設定し、互いに学び合う学習活動を位置付けることで、一人一人の学びが深められたり、広げられたりし、思考力・判断力・表現力を育むようにしたい。</p> <p>そのための授業づくりの手段として、本校では『授業構想シート』に取り組んでいる。</p> <p>日々の実践の積み重ね(OJT)の考え方に基づき実践の交流を図っている。</p> <p>【OJT→On the Job Training : 実際の仕事を通して、実践力を向上させる研修のこと】</p> <p>※年間900時間近くある授業の1時間に研究授業に力を入れる従来の研究方法とは別の視点を持ち、日々の実践を積み重ねる。</p> <p>※日々の授業を改善していくことに研修の中心を置く。 →授業日数約200日=200回の研修の機会を設定。</p> <p>今年度は、特に交流の場面に重きを置いている。 形式的な交流から⇒目的が明確な交流へ。目的を明確にした学び合いが行われることで、「思考力・判断力・表現力」を高められる授業づくりを目指している。</p>
人材育成の研修	授業構想シートを活用した実践交流	<p>授業構想シートを掲示するコーナーを作り、お互いの日々の実践を視覚化したり、実際の授業を見合い意見を交流したりするようにしている。</p> <p>授業構想シートを用いた授業交流を行い、事後検討会などから、次につながる研修・明日から取り組める研修になるようにしている。</p>
運営の工夫	目的をはっきりさせ、その日の研修で何をするのか、何ができたかよいかの共通理解を図り進めていく。	<p>学習にも、見通しやゴールがあるように、研修をするにあたり、その日の研修の見通しや、ゴールを示し、参加している全員に研修についての具体的なイメージをもってもらい、参加している全員が共有することができるような研修にしている。</p>

_____ 月 _____ 日 _____ 校時 _____ 年生 _____ 教科 (_____)

1. 本時のねらい (身に付けさせたい資質・能力) ※ゴールの具体化: 何ができるようになっていけばいいのか

見通し
(分)

2. 本時の課題 (めあて)

課題・解決の見通し
(分)

3. ねらいにせまる学習活動 (言語活動)

①体験から感じ取ったことを表現する活動
 ②事実を正確に理解し伝達する活動
 ③概念・法則・意図などを解釈し, 説明したり活用したりする活動
 ④情報を分析・評価し, 論述する活動
 ⑤課題について, 構想を立て実践し, 評価・改善する活動
 ⑥互いの考えを伝え合い, 自らの考えや集団の考えを発展させる活動
 ⑦その他
 ☆具体化☆

個人思考
(分)

集団思考
(分)

言語活動のねらいを明確にすること!! 「何のために交流するのか」
確認する 参考にする(=発想を広げる) 結論を出す(=検証する)
対比する(⇒共通点を見つける・相違点を見つける) 意見を求める

まとめ
(分)

4. まとめ

5. 振り返り (自己評価) の方法 (できた・わかったを実感させる手立て)

①挙手 ②確認問題 ③文章による記述 ④キーワードを提示した記述・説明
 ⑤A・B・C等による自己評価 ⑥自己評価カード
 ⑦その他 (_____)

振り返り
(自己評価)
(分)

6. (授業者 ・ 参観者) から (前時の内容, 授業の見所, 良かった点, 改善点, 次時の課題など)

【資料 6】

名寄市教育改善プロジェクト委員会 先進校視察研修報告書

視察日	平成28年 9月13日(水)
視察先	石狩市立双葉小学校・石狩市立花川小学校
報告者	名寄市立名寄東中学校 松井 秀樹
視察校の様子	<p>【双葉小学校】 全校児童 308 名。学級数は特別支援学級を含め、13 学級。各学年で綿密な打ち合わせをし、授業を工夫している様子がうかがえた。教室環境や机上生理は、全学年統一して行われているように思う。</p> <p>【花川小学校】 学校力向上の実践指定校として、近隣の学校と連携を取りながら行っている。全学年の授業の様子から、教職員全員で力を合わせ、児童の指導にあたっていることが分かる。</p>

【視察先で学んだこと(特徴的な点, 感想)】

- 廊下に家庭学習の取組の様子が掲示されていた。一人一人のがんばりに、先生方が一言メッセージを入れている。当たり前のことかもしれないが、毎日行うとなると、かなりの労力になるだろう。先生が見てくれていると子どもが実感することで、家庭学習にもより力が入ると思う。
- 1年生の教室の前には、ランドセルと鍵盤ハーモニカがきれいに並べて置かれていた。4月からの指導の成果だと思う。教室の外だけではなく、机の中も整理整頓されている児童が多かった。このように、整理整頓をきちんとすることで、心も整理され、落ち着いて授業に臨むことができるのではないかと考える。
- 5年生の討論会の授業の一場面である。意見を発表する人は、相手を見て話をしている。また、聞く人も発表している人をしっかり見ている。手遊びをしたり、よそ見をしたりしている人がほとんどいないのは、学習ルールが4月から徹底されてきた証拠だと思う。



【本校に取り入れたいこと】

図書館の本がとてもきれいに並べられていた。分類番号も大きく掲示されており、探しやすい。カウンターの近くには、学習スペースが設置されている。六角形のテーブルなので、授業で使う場面でも、グループで話し合い活動もしやすいように思う。司書の方は、3年前からこの学校に勤務しているが、年々図書館を活用する児童が増えているようだ。昼休みには、図書館で異学年の交流もあり、子どもたちが楽しい時間を過ごしていることが分かる。授業でも、図書館を活用する場面も多くあるらしい。本校でも、生徒が学びやすい図書館になるように、工夫していく必要がある。授業だけではなく、図書館の活用についても、小中で連携していくことが大切だと思った。



【資料 7】

名寄市教育改善プロジェクト委員会 先進校視察研修報告書

視察日	平成28年 10月26日 (水)
視察先	江別市立大麻小学校
報告者	香川 寛明
視察校の様子	1学年12学級、全校児童数約300名。平成25年から3年間、体育専科教員活用事業として、体育授業の充実のための取組を進めてきた。(現在は、体育専科の加配は終了している。)3年間の取組によって児童の体力向上が図られてきており、H27には全国平均を上回る結果となった。

【視察先で学んだこと(特徴的な点,感想)】

□体育館の学習環境の整備

体育館の壁にはホワイトボードが設置されており、授業はそのホワイトボードの前で行われていた。学習の課題やふり返りは、教師の説明だけで終わるのではなくホワイトボードを効果的に活用していた。



床面には6mほどの間隔で目印になるテープを張ることで、フローアを分割しやすいように工夫されており、子どもたちはその印にミニコーンを置いて、素早くグループごとに活動することができていた。



□全校児童による体力テストの取組

大麻小学校では、体力向上の取組の改善充実を目的に、全児童が8種目すべての体力テストを実施している。

全児童を対象に実施する場合、多くの人手や時間を要するが、1年生と6年生、2年生と5年生がペアになり、高学年がそれぞれの種目のお手本を見せたり、低学年の記録を取ったりするなど工夫して実施している。分析は各学年の平均と全国平均を比較するだけでなく、学年全体でどの種目がどれだけ伸びているかもレーダーチャートで詳細に分析されていた。

また江別市の取組として、「体力手帳」を作成している。「体力手帳」には小学校から中学校へ引き継ぐようになっており、小学校1年生から中学校3年生までの9年間の体力テストの記録を記入したり、運動に関する個人目標などが書き込めたりできるようになっており、学校・家庭・地域における運動、生活習慣の改善充実に役立っている。

【本校に取り入れたいこと】

□体育の授業の導入とふり返り

大麻小学校では、体育の授業でよく見られるような係の児童を前に出して準備体操をすることは、運動時間を確保するために行っていない。体育の授業は簡単なストレッチを2分程度行っただけの準備体操から始まり、その後、主運動につながる準備運動を行う。今回の授業ではサッカーにつながる準備運動としてボールやハードルを使った運動を15分間行っていた。子どもたちは「体操」「準備運動」「主運動」の体育の授業のおおよその流れを理解しており、見通しをもって行動することができていた。準備運動で使用する道具も高学年では自分たちで手際よく準備し、運動時間の確保につなげていた。

□系統表

大麻小学校では、それぞれの運動ごとに1年生から6年生までの系統表を作成しており、前年度にどのような活動を重点的に行っていたかを把握することに役立っている。さらにその系統表の中に前述した準備運動と主運動などを書き込んでいき、学校独自の系統表を作成していけると効果的ではないかと感じた。

【資料 8】

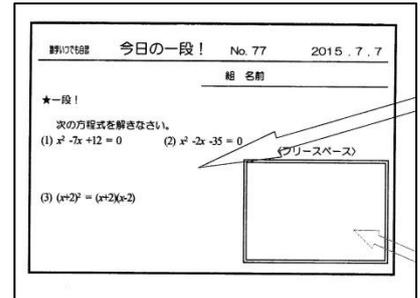
名寄市教育改善プロジェクト委員会 先進校視察研修報告書

視察日	平成28年10月26日(水)
視察先	江別市立大麻中学校
報告者	名寄市立風連中学校 教諭 鬼原 善彦
視察校の様子	生徒数の増加により、江別第二中学校から分離開校。また、昭和54年には大麻東中学校と分離し、現在にいたる。17学級という大規模な学校でありながら、学力向上にむけて教科担だけでなく、各担任が協力しながらすすめている。

【視察先で学んだこと(特徴的な点, 感想)】

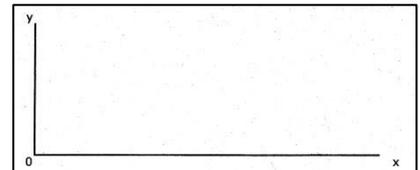
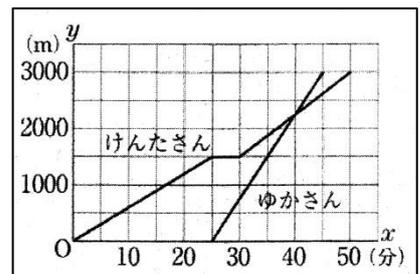
○学力向上にむけた、学校としての取組

「数学朝自習」というものを学校全体で取り組んでいる。研究部と数学科が連携して提案し、全学級が毎朝取り組むことで、基礎的な力を身につけさせ、全体のレベルアップをはかっている。大きな学校では、すべての採点や添削を教科担がすぐには難しいため、各担任の協力が不可欠となっている。また、フリースペースという欄を設けて、担任と生徒個人のコミュニケーションの役割も担うように工夫されている。



○学力向上にむけた、教科での取組

授業参観で、数学の授業を参観させていただいた。ありがちなのは、グラフから特徴を読み取ることだが、 x y 軸しかないグラフ用紙に、問題の文章から読み取れる情報だけで概形を書かせるものであった。先生の工夫ひとつで、読解力を育てたり、求めてみたいという意欲をわかせたりすることができるのだと学んだ。また、生徒が書いたグラフを全学級に備え付けられている実物投影機で写し、多様な考え方を取り入れながら進められていた。



【本校に取り入れたいこと】

○共通認識と徹底

午前中の小学校では「特別なことはしていない。しかし、体育科において小学校6年間を見通した教育課程を作成し、すべての先生が迷うことなく授業に取り組むことができるように整理し、つくりあげた」とあった。また、中学校でも「全学級で共通して取り組む事項があり、教科に関係なく協力し合っている」とあった。おそらくどの学校にも「学習のきまり」や「生活のきまり」はあると思う。しかし、それを全教職員が共通認識のもとに進められているだろうか。また、徹底させるまで根気強く指導が継続できているだろうか。本校でもきまりはあるが、全員で徹底しているとは言えない。ぜひ参考にしていきたい。

【学習の基本習慣を身につけよう!】

- ① 授業開始のチャイムが鳴る前に、学習道具を机の上に用意する。
- ② 「今日は何を学ぶか」自分なりに課題を持って授業に臨む。
- ③ 授業の開始時・終了時は、きびきびと、元気よく、挨拶をする。
- ④ 体は正面を向き、椅子に姿勢良く座る。
- ⑤ 私語をしない。
- ⑥ 授業に対して、意欲的に取り組む。
- ⑦ 先生の説明やクラスメートの発表をしっかりと聞く。
- ⑧ 課題に対して自分自身の考えを持ち、積極的に発表を行う。
- ⑨ ノートのとり方を工夫して、復習にも生かせるようにする。
- ⑩ 疑問点や不明点はそのままにせず、授業中または授業後に質問し解決する。



(大麻中学校の学習のきまり)

【資料 9】「新体力テスト」に関わる実技研修会

○ 第 2 回目の実技研修は、平成 28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査で課題のあった項目を中心に来年度の取組に向けて理解を深める実技研修会を実施した。

- 1 日 時 平成 28 年 11 月 30 日 (水) 15:45～16:45
- 2 会 場 名寄南小学校 体育館
- 3 講 師 名寄市立名寄中学校 須藤 雅 典 教諭
- 4 対 象 本市全学校の体育科担当教員等 (28 名参加)
- 5 概 要

(1) 「新体力テスト」実施上の留意事項について

名寄中学校須藤雅典教諭から、平成 28 年度新体力テストで課題 (ボール投げ・立ち幅跳び・反復横跳び) のあった種目を中心に配慮事項や記録の測定の仕方など、新体力テストの効果的な実施方法に関する説明があり、全職員で共通理解を図った。

(2) 「新体力テスト」の実施に向けてのポイント

平成 28 年度新体力テストで本市で課題のあった種目の具体的な指導ポイントについて、実技を通して研修を行った。



【反復横跳び】



【立ち幅跳び】



【ボール投げ】



【須藤教諭による説明】

(3) 成果

- ・ 指導の工夫やつまずきのポイントに対するわかりやすく丁寧な説明で有意義な研修となった。参加された先生方も指導技術の向上のために意欲的に活動していた。

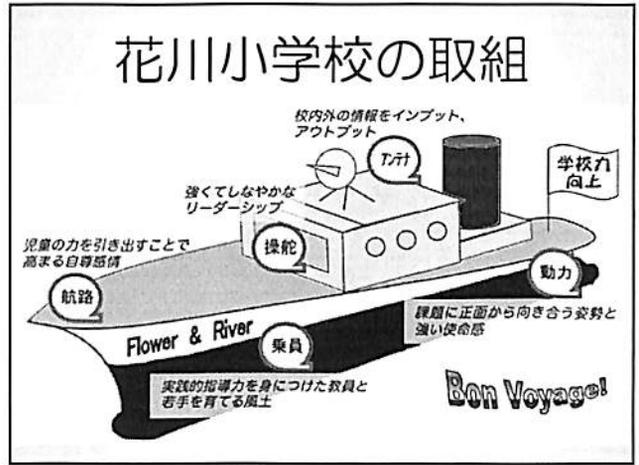
【資料10】先進校視察研修報告会 発表資料(一部)

名寄市教育改善プロジェクト委員会
先進校視察研修報告会

石狩市立花川小学校



名寄市立風漣下多寄小学校
佐藤 琢磨



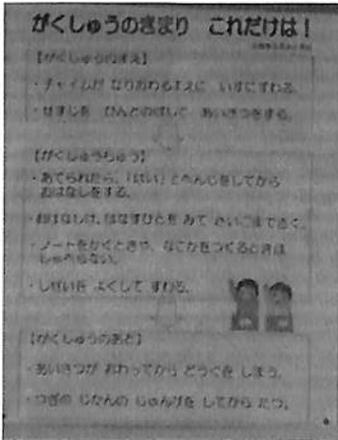
1. 教育課程・指導方法に関わって
 - (1) 明確な数値目標の設定と検証
 - (2) 学習規律・生活規律の統一及び徹底
 - ①～⑤
 - (3) 基礎学力を保障する学習指導
 - ①・②
2. 地域家庭との連携
3. 人材育成に関わって

1. 教育課程・指導方法に関わって
 - (1) 明確な数値目標の設定と検証

花川小学校では学力・体力・教職員の研修等、各取組に明確な数値目標を設定している(以下はその一例)。

項目	数値目標
CRT標準学力調査/全国学力学習状況調査	正答率を全国平均以上にする。
最低保障学力評価テスト(音読・漢字・計算)	正答率8割以上の児童を学校全体の90%以上にする。
公開授業	年間に1人2本以上授業を公開する。
ICTを活用した授業の公開	年間に1人1本以上授業を公開する。
読書	1・2年生は年間30冊以上 3～6年生は年間2000ページ以上
家庭学習	学年×10分以上取り組む児童を学校全体の80%以上にする。
体力づくり	マラソン(前期) 1・2年生…1.8km 3～6年生…3.6km

(2) 学習規律・生活規律の統一及び徹底



【がくしゅうの前】

- ・チャイムが鳴り終わる15秒に、いすにすわる。
- ・目を見せ、みんなの顔をみて、あいづつをする。

【がくしゅうのちゅう】

- ・あてられながら、「はい」とちゃんと答えてから、お返事をします。
- ・お返事は、はなすひとをみて、あいづつをします。
- ・ノートをかきとくとき、なごかきとくるときは、しゅつをします。
- ・しゅつは、よくしてすわる。

【がくしゅうのあと】

- ・あいづつが、あわってから、どうくをします。
- ・つぎの、じなんの、しゅつを、してから、たつ。

- (2) 学習規律・生活規律の統一及び徹底
 - 【学習の前】
 - ・チャイムが鳴り終わる前に席につく。
 - ・挨拶のときは、正しい姿勢をとる。
 - 【学習の中で】
 - ・挙手し当てられたら、「はい」と返事をしてから発表する。
 - ・話を聞く時は、話す人の顔を見て、だまって最後まで聞く。
 - ・ノートを書くときや、作業のときは無言で行う。
 - ・姿勢良く座る。
 - 【学習後】
 - ・終わりの挨拶をしてから道具を片付ける。
 - ・次の時間の準備をしてから席を立つ。

①立腰

【立腰の効果】

- ①やる気がおこる
- ②集中力がつく
- ③持続力がつく
- ④行動が俊敏になる
- ⑤内臓の働きがよくなり、健康的になる
- ⑥精神や身体のパランス感覚が鋭くなる。
- ⑦身のこなしや振る舞いが美しくなる。

合い言葉…立腰！

①立腰



②話し方・聞き方の指導

1年用

★くわしくはなす
じぶんのかんがえ
じゅんじょ
 「はじめに」「つぎに」「さいごに」

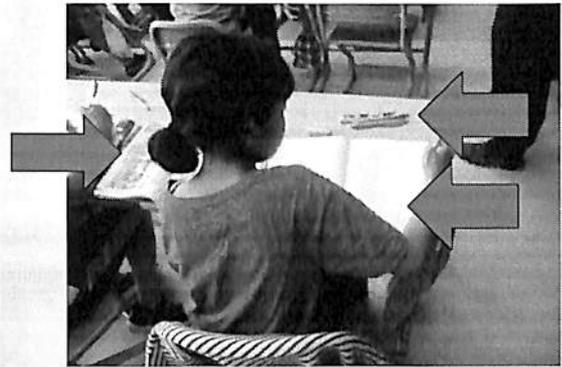
★はつきりとはなす
みんなにかおとおへそ
こえのおおきさ

はなしかた： みんなにきこえるこえで、さいごまで、おひげえよう。

ききかた： はなすひとをみて、さいごまで、きこえよう。

★め、みみをつかっちはなしをきく
しせいをたたく
はなすひとをよくみて
わかったときはうなずきながら

③机上のルール



④学習用具



シンプルな学習用具
へ移行

⑤習得を確実にするノート指導

【ノートの書き方】

- ノートに必ず書くもの
日付 教科書のページ番号 単元の学習回数 課題 まとめ 学習の自己評価
- 課題は青枠で囲み、まとめは赤枠で囲む。
- 理解深化問題を解く際は必要に応じて、自分の考え、式と答えを書く。
- 計算練習をする際は、間隔を空ける。筆算などは補助線の分も予想して問題を書かせる。
- 分数の計算をする場合は、分母を下段に、分子を上段に書く。ただし、文章問題の中で分数を書く際は、1行の中に分母、分子の両方を書く。
- 文字を書く際、薄い黄色や薄いオレンジは使用しない。

⑤習得を確実にするノート指導

この図は、左側に「研究部提案…ノートの基本形」を示し、右側に「実際の児童のノート（6年生）」を示しています。両者の間に矢印が描かれ、研究案が実際の授業でどのように実践されているかを示しています。

ノート作り～各学年

2/26(水) P.60
 はじめに 4ひき
 ↓
 1ひき 3へた
 ↓
 ぜんぶで 5ひき

1年生

ノート作り～各学年

2/26(水) P.60
 (か)何百の計算のし方
 ついてかんがえよう。

しき $30 + 40 = 70$
 $3 + 4 = 7$

しき $70 - 20 = 50$
 $7 - 2 = 5$

(ま)100のまとまりから、
 あるかで計算する 2年生

ノート作り～各学年

2/26(水) P.60
 (か)何百の計算のし方
 ついてかんがえよう。

3年生

ノート作り～各学年

2/26(水) P.60
 (か)何百の計算のし方
 ついてかんがえよう。

4年生

ノート作り～各学年

2/26(水) P.60
 (か)何百の計算のし方
 ついてかんがえよう。

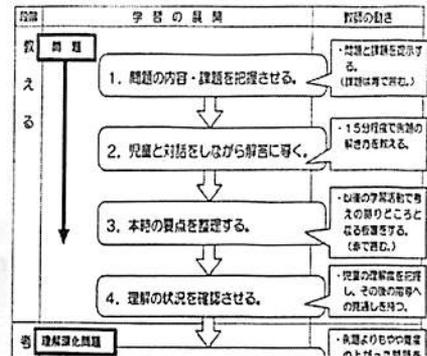
5年生

ノート作り～各学年

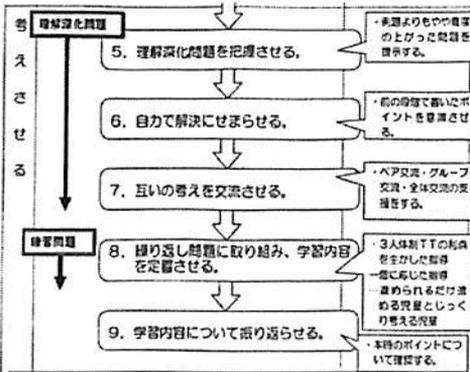


6年生

(3) 基礎学力を保障する学習指導 ①教えて考えさせる授業



①教えて考えさせる授業



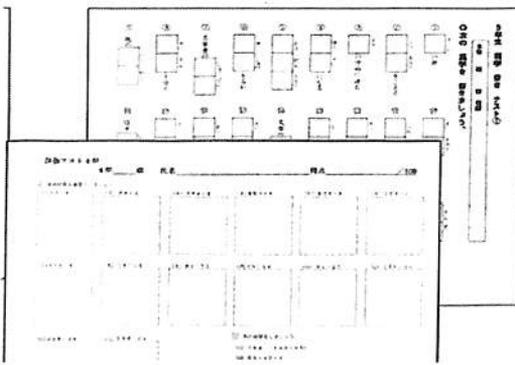
①教えて考えさせる授業

児童と対話をしながら、問題の解決にせまらせていく。

授業後ノートを見返した時にも、その時の思考の流れが思い出せるよう板書する。

「教えて考えさせる授業」の板書例
右上の「まとめ」の部分には20分程度で到達する。またはその後の活動の考えの振り返りなどを行うようにまとめる。

②最低保障学力評価テスト



- ・ T Tによる指導の工夫
- ・ 習熟度別少人数指導の充実
- ・ 通級取出し指導
- ・ ICT機器の効果的な活用
- ・ スキルタイム
- ・ 給食前学習会・放課後学習会
- ・ 夏・冬休み学習会

2. 地域家庭との連携

○学校支援地域本部の方々による学習支援

- 音読検定
- かけ算検定
- 漢字検定

3. 人材育成に関わって

- 研究授業
- メンター研修
- 放課後ミニ研修

最後に…

松井明生校長先生

「大切なのは、チームワークであり、校長・教頭がなかよくし、威圧感を出さず、普段からいろいろなことを話せる関係ができていたり、何かあったときにみんなで一緒にやるのが大切である。」

ご清聴

ありがとうございます

